

○ ワーキングママのお受験について

お仕事をもちながらご家庭と両立するだけでも大変なのに、お子様が生まれ慣れない育児、そして保育園か幼稚園か、そして小学校は・・・とワーキングママにとって節目節目の選択は悩みが尽きません。

私自身も20年間企業で総合職として働きながらの出産・育児、そしてお受験を経ての幼稚園入園から小学校受験まで折々悩みながら過ごしてきました。

格別に頑健な体でもなく、両親も早くに亡くし親戚もいない私にとっては主人が頼りでした。幼い頃から「女性だからといって仕事をしたい夢を途中であきらめることはない。自分のお金で主人へのプレゼントくらい買いたい」と考えていた私にとって、出産と同時に仕事を辞める、という選択肢はありませんでした。ですから子供が生まれたら保育園に預けて・・・と漠然と考えていたくらいだったのですが、出産後初めて我が子の顔を見た瞬間、考えが変わりました。

当時の保育園は今と違ってほとんど延長保育の制度もなく、母乳育児やアレルギー除去食に対応してくださることもなかったのもので、産後8週間で復帰した私にとっては心配なことだらけでした。「できる限り自宅に近い環境で、母親が普段いない寂しさを経験させないようにしたい」という考えが湧き起こり、最初は保育ママさん（自宅でお子様を預かって世話をしてくださる方）宅にしばらく預けていました。ところが、次なる試練は就園時にやってきました。

たくさんのお子様を預かっている保育ママさんにとっては、うちの子一人のために園やお稽古ごとの場所まで送迎したりすることはご負担とのことでした。それに私の場合、たった一人の身内であった私の祖母がこの頃からどんどん認知症が進んだこともあって、できるだけ傍にいてあげたい、子供とともに暮らすことも祖母にとっては有効、と考えたのでした。ましてや二人目の子供を妊娠していた私も思うように動けず、しかし仕事は続けており、体力・精神力の限界も感じていました。

ある夜、主人にベビーシッターを頼んでその方に子供と祖母の両方をお手伝いしてもらえないか、そうしたら子供も幼稚園に通わせることができるのではないかと相談を持ちかけました。主人は、「それで家族全員が精神的なゆとりを持って暮らせるなら、しばらくの間のことだから、多少の出費は仕方ないだろう」と賛成してくれました。

それからすぐにベビーシッター会社に相談したところ、現実はその簡単ではありませんでした。「ベビーシッター」はあくまで子供の世話限定。家事は原則しないのです。ましてや祖母の世話もできないのです。極端な方は、子供がお昼寝をしているのに「見守り」と称して、外では洗濯物が雨にぬれているのに、取り込みもしてくれず読書をしていた方もありました。「ヘルパー」はどうか、と頼んでみたこともありましたが、今度は子供の世話ができない、家事はするけれど・・・という方とか、ある日帰宅してみると家中の家具が全部移動されていて数日後現金やビデオムービーなど金目のものがなくなっていることに気づ

いたこともありました。

こうなったら自分で納得できる方を探すしかない、とめらめらと不屈の精神が湧いてきました。新聞に折り込み広告を出す、ハローワークに掲示する、ポスターを出す、知り合いに頼む・・・等を繰り返しているうちに救いの神が現われ、子供が通っていた幼児教室の先生がお手伝いくださったり、今も来て頂いている方が夕食から入浴万端やってくくださることになり、ようやく安心してお受験準備や仕事に打ち込めるようになったのです。

幼稚園受験の時は、「環境が良く、家から近いこと」を中心に選びました。長男の場合、幸い近所に皇族のご卒業された幼稚園があり、受験したところ合格を頂きました。他の幼稚園に比べとても早い時期の試験日であったため、合格も一番先に頂いたこともあって他の幼稚園は受けず、そちらにお世話になることに決めました。しかしその後長男の小学校受験を経て小学校受験の大変さをありありと知ったため、長女の幼稚園選びはかなりの数の幼稚園を早くから見学して回りました。幼児教室には2歳から入れており、プレ幼稚園のような感じの体験をさせておりました。

受験前は数々の噂が飛び交い、何度「働いているママのご家庭が受かったケースはないわよ」「園長先生の一言で決まるから、事前にご面談に伺い、そのときに働いていることがばれると絶対無理よ」などといわれたことか知れません。しかし、母親同士で交わされる噂の9割はデマだと思います。確かに受験に強い幼稚園・小学校でワーキングママが多数を占める、というようなところはあまり多くありません。私の場合も学年に2、3名しかいなかった時もありました。それでも、どのような考えで自分が仕事を続けているか、そしてその中でどのように子供のことを真剣に考え、子供のために時間を作り密度濃く過ごしているか、が幼稚園や小学校に伝われば何も問題ありません。

日頃多くの人と交わり切磋琢磨されているワーキングママにとっては、プレゼンテーションもお手の物でしょう。スーツを来ている時の身のこなしもこなれていると思います。家庭と職場でうまく気分転換もされていて、毎日新鮮な気持ちで、どんなに疲れていても「さあ、これからあの子と一緒に時間が始まるんだ！」と楽しみに家路を急ぐのはワーキングママの特権です。毎日、「今日も会えて良かったね！」と子供に声をかけながら過ごす楽しみもあります。

反面、時間がない分思わぬ漏れがあったり、忘れ物をしたり・・・ということもありえますので、どんなに疲れていても子供が恥ずかしい思いをしないように最大限留意する必要があります。

でも、何もかも自分ひとりでやるのは無理です。だれしも1日には24時間という決まった時間しかありません。疲れた時、つらい時などは遠慮なく他人様の力も借りましょう。昔は日本も村社会で、その土地土地で大家族や親戚が助け合ってきたものです。私自身は東京で生まれ育ち、あまりそういった地縁的な関係が好きな方ではなく、若い頃はよく「自分ひとりでやってみせる！」といきがっていたものです。

しかし、子供が生まれてからその考えは大きく変化しました。

幼い頃からあまり小さい子供と接することのなかった私にとっては、産後、病院から帰宅した時ほど不安な時はありませんでした。帰宅した夜は、それこそ何度も生まれたばかりの我が子の傍に夜中にも近寄り、本当に息をしているかどうか耳を澄ませたものです。毎日のように授乳できた量を測り、メモをつけて、標準より飲む量が少ないといった落ち込み、あまり母乳の出が良くないのではないかと気を揉み、まさに「マタニティーブルー」になりそうでした。そんな時、近所から区の助産師さんが訪ねてきてくださり悩みを聞いてくださいました。そのことがご縁でその方の元へマッサージに通い、個人的な相談にも実に良くのっけていただきました。その他にも、出産した病院の母乳外来の若い看護師さん達、ご自身のお子様の着られたお洋服を下さった職場の売店の奥様、会社で搾乳した母乳を冷凍庫で保存するとき快く冷凍庫を貸して下さった食堂の方々、その他大勢の方々に支えられながら何とかやってこられました。

3年前、10年間介護してきた祖母を見送りました。10年間の同居で、子供達はひいおばあちゃんが家族の一員であることをあたりまえのように受け入れていました。祖母もまた、最後まで子供達のことを可愛がり、認知症もそんなには進行せずに過ごしていました。今も子供達は自宅の前の桜の花が咲くと、それを拾い集めては祖母の神前にお供えをしています。

自分が子育てにも大分ゆとりが出来てきた今、後続く方に自分が経てきた拙い経験が何かお役に立てるなら・・・と考え、「幼児教室サクセス」を設立しました。親も傍におらず、仕事を続けながらも、自分の強い思いやご夫婦の助け合う力があれば、受験は必ずよい結果が出せます。主人は家事は苦手ですが、子供達の世話は授乳以外は私よりも上手なくらいやってくれました。そうした経験が受験の時も、面談で何もよどむことなく答えられた所以でしょう。幼稚園への送迎も、毎日朝は主人が、帰りはシッターさんか私が分担して行っていました。

しかしワーキングママにとっては、絶対的な情報量や時間が不足しています。（その分先に述べた変な噂に惑わされたり、そのことだけを一日中考え悩んで過ごさなくてすむのですが・・・。）ですから、私達の会社では、そういったお母様のために願書受取・提出の代行や受験に必要な情報の提供、お母様の代わりにそのご家庭オリジナルの受験カレンダーの作成などのきめこまやかなサービスをさせていただいております。私自身が、「あったらよかったな・・・」と思えるサービスをご提供することを大切に考えています。

それに加えてお子様に対しては、土日、夜間も含めた家庭教師派遣を行い、お仕事をお持ちのお母様にも家事の傍ら、お子様がお勉強される様子を見ていただくことができます。

また、新しい試みとして「お母様の教室」を開設いたしました。この教室では、「主婦の方向け」「ワーキングママ向け」と二つの時間帯を考慮した講座カリキュラムを組んでいます。「主婦の方向け」では平日の、お子様を幼稚園へお送りになった合間の午前のお時間、「ワーキングママ向け」では土曜もしくは平日の夜間で講座を行っています。

幼児教室サクセスは、「ここ1箇所で育児やお受験に役立つすべての知識や情報が得られる」をモットーに、中立公平なお受験情報、有名私立小学校の先生のお話等のお受験情報はもちろんのこと、お子様やご家族の健康を考える食育の話、面接やおつき合いで美しく見えるように自分を高めるマナーの話、児童心理学、子供の歯の話、お母様ご自身がリラックスできるようなプチマッサージにいたるまで、癒される環境の中で役にたつお話を聞けるよう工夫されています。

ぜひ一度いらっしゃってみてください。

お母様の笑顔が絶えることのないよう、私達はご家族皆様を精一杯サポートさせていただきます。